

地域の防災へ団結

消防団定期観閲式

消防団の日頃の訓練の成果を観閲者に披露する消防団定期観閲式が、5月4日(木)役場駐車場で行われ、町内各分団から約150人の団員が参加しました。この日は、日差しが強く、団員らは額に汗を浮かべながら真剣な表情で整列していました。

多くの町民が見守る中、人員姿勢服装点検や車両機械器具点検、分列行進のほか、中継送水訓練が披露されました。また、中里子ども園による幼年防火クラブの鼓笛演奏も行われ、団員同様に日頃の練習の成果を披露しました。式典に移り、長年消防団に尽力した団員たちの功労や競技に対する表彰が行われました。観閲者講評、団長訓示、来賓祝辞につづき、受章者を代表して25年以上団員を務める本団附分団長の外崎満幸さんが「受章に感謝しています。これからも消防人として奉仕していきます」と謝辞を述べました。

服装、車両点検や行進などを競う優良分団では、第3分団(深郷田・八幡・大沢内)が優勝、第11分団(新町1・新町2・花丘町・派立・折戸・温泉町)と第2分団(派立・宮野沢)が準優勝となりました。



中里こども園の幼年防火クラブ



きれいな蛍火を期待して

ホタル幼虫放流式

ホタルまつりに合わせてホタルがたくさん飛び交うようにと、5月11日(木)滝ノ沢ふるさと砂防愛ランドでホタル幼虫放流式を行い、中里小学校5年生20人が参加しました。

開会式では、濱館町長が「昔はホタルがたくさん飛び交っていた。昔に負けないくらいホタルが飛ぶように願いを込めて放流してください。そして、ホタルまつりには、ぜひ遊びにきてください」と挨拶しました。

今年はゲンジボタルの幼虫約200匹とヘイケボタルの幼虫約300匹、餌となるカワニナ約2,000匹が用意されました。



児童らは、幼虫とカワニナが入った容器をゆっくりと傾けて、公園内の水路に放流しました。

参加した小学生は「蛍の幼虫は不思議な形をしていた。成虫になってきれいに光ってほしい。今年のホタルまつりはいつもより楽しみです」と期待を膨らませていました。

ホタルまつりは、この夏12回目を迎えます。幼虫の放流式は15回目となりました。



願いを込めて放流

ボクシングロボットで白熱勝負

小泊少年少女
発明クラブ開講式

小泊少年少女発明クラブが5月13日(土)日本海漁火センターで開講式を行いました。今年度は全8人でクラブの活動がスタートしました。開講式では、新しく会長となった相澤英知会長から「学校では味わえないことをこのクラブを通して、是非、経験してほしい」と挨拶がありました。

開講式の後には、相澤会長による1回目の講座「楽しい工作/ボクシングロボット作り」が行われました。会員たちは説明書を見ながら、分からないところは指導員に聞きながらキットを組み立てていきました。ロボットはストレー



真剣な表情で組み立て



完成したロボットで勝負!

ートかアッパーのパンチを選ぶことができ、子どもたちはどちらのパンチにするか頭を悩ませていました。その後、完成したロボットを使って勝負。トーナメント形式で行い、ゴングの合図で打ち合いが始まりました。最後まで盛り上がる中、優勝は久保田美空さん(小泊中2年)に決まりました。会員らは「作るのは難しかったけど、勝負が楽しかった。負けたのが悔しい」と話していました。

同クラブでは月1回ペースで講座を開催し、秋からは2月に行われる青森県ジュニアロボットコンテストに向けて活動していきます。

おおきくなーれ、おいしくなーれ

園児らが五農生と宇宙毛豆の植え付け体験

五所川原農林高校の生徒たちが育てている「宇宙毛豆(大豆)」の種を使った種まき体験会が5月10日(水)、野上健さん(下高根)の大豆畑で行われ、薄市小学校、中里こども園、富野こども園、薄市こども園の園児ら58人が参加しました。

この日は、快晴となり作業のしやすい日となりました。同校の生徒13人も手伝いに駆け付けました。7センチほどの深さの穴を高校生がつくり、続いて園児たちが2粒ずつ入れて土をかけていきました。子どもたちは、高校生のアドバイスをききながら「おいしくなーれ」などと声をかけて丁寧に植えています。

植え付けを体験した園児らは「おおきくなつたら自分で採りたい。食べるのが楽しみ」と笑顔で話していました。



大きくなってね

